

圏域別検討会の取組(紹介)

1 西多摩圏域（社団法人西多摩医師会）

東京都からの委託により、地域の医療・福祉・介護の領域から構成される「西多摩地域脳卒中医療連携検討会」を設置し、地域特有の問題を含めて、患者さんが安心して療養できる環境を提供するための問題点について議論を重ねてきた。

医療-福祉の連携を実現するため、次のようなツールを作成し活用している。

(1)西多摩地域脳卒中医療連携リスト

急性期から維持期に至るそれぞれの医師会員すべての医療機関の対応可能なことを集約。病院・診療所等の医療機関に加え、歯科医療機関、調剤薬局、介護老人保健施設、訪問看護ステーションなどの情報も掲載。

(2)患者情報シート

医師・看護師・リハビリテーション技師・ソーシャルワーカー・ケアマネージャーらで患者情報を集約。西多摩全域での入院申込書・連携パスの基本となっている。なお、「診療報酬」のための「パス事務局」は青梅市立総合病院経営企画課が担当し、こうしたシートなどを利用して運用される。(3公立病院合同)

(3)生活リハビリ手帳

リハビリの効果を判定するために、患者さん自身が記入し持ち歩く手帳。医療・福祉・介護の従事者が手帳に記入された情報を共有でき、患者さんのやる気や意欲につながることも期待される。

(4)西多摩、医療・福祉地域連携マニュアル

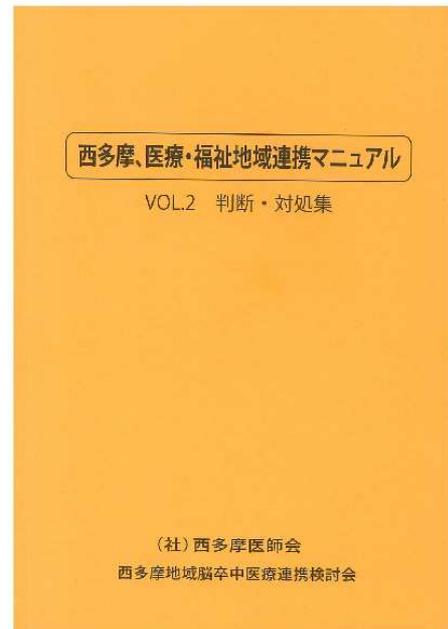
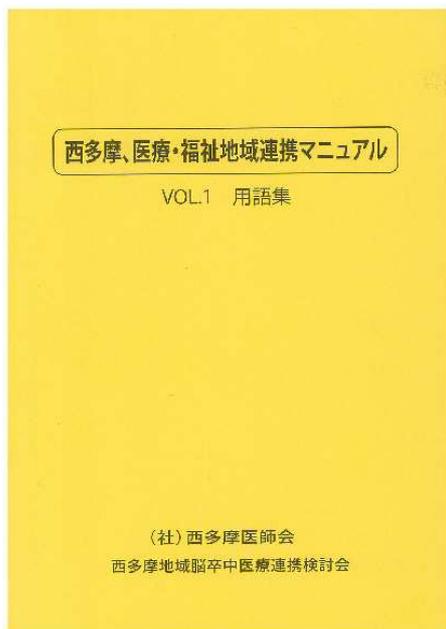
<Vol.1>

各施設・事業所で使用されている業界用語(略語など)を現場から抽出し、一覧表にして他の職種も理解できて、情報が正しく伝わるようにした。また、各施設で使用されている主な評価基準を列挙、ジュネリック薬品等の商品一覧表などを掲載し、情報の共有化を図ろうとするもの。

<Vol.2>

「早く気づき、早く対処すること」をコンセプトに、日常的によく経験する患者さん、利用者さんからの訴えや症状をどう考えたらよいかを提示し、基礎的知識を普及するために作成。

医療と福祉がひとつのチームとして、患者さんが安心して療養できる環境を提供することにつながる。



2 北多摩西部圏域（国立病院機構災害医療センター）

(1) 地域住民への普及啓発

平成 23 年4月1日から2週間の間、立川駅シティビジョン広告を利用し、地域の住民に対する脳卒中に係る普及啓発を実施。

(2) 地域でのケア充実

「生き生きノート」作成

- ・使用説明会開催（主任ケアマネ対象） H23.5
- ・モニター事業開始（主任ケアマネへのアンケート実施） H23.5

(3) 救急隊講習会の開催

新たに圏域内救急隊に配属された職員を対象に、講習会を開催。「東京都脳卒中救急搬送体制実態調査結果からみた東京の脳卒中診療とその問題点」と題した講演のほか、救急車端末への脳卒中 A、B 病院掲載開始後の脳卒中救急搬送体制について、救急隊と受入側医療機関との活発な意見交換を行った（本講習会は、平成 21 年度から毎年開催）。